

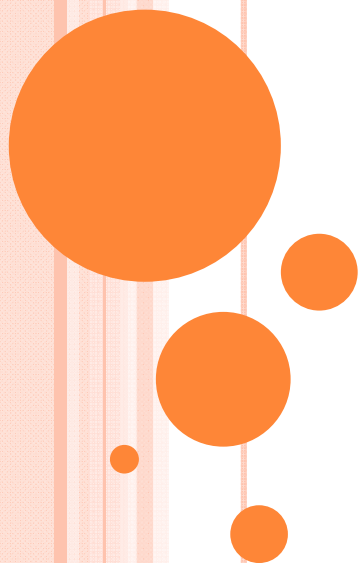
事例紹介資料 資料 1

- ・ 十日市場中学校 地域交流事業

- ・ ミニヨコハマシティ

地域で子どもを見守る仕組み

～十日市場中学校地域交流事業の事例から～



NPO法人グリーンママ
理事長 松岡 美子

十日市場中学校地域交流事業の経緯

なぜ、中学校？

- (1) 地域とのかかわりが薄くなる時期
- (2) 行政サービスが受けにくくなる時期
- (3) 地域の中心的シンボル



中学生と地域の大人が顔の見える関係づくり

十日市場中学校・地域交流事業のあゆみ

■平成16年度(2004年度)

学校と地域をつなぐコーディネーターを！

■平成17年度(2005年度)

生徒が地域に出て、様々な活動を体験してほしい！



■平成18年度(2006年度)

地域の人たちと生徒が顔の見える関係を！

受け入れ団体：新治市民の森愛護会、三保ねんじゅ坂プレイパーク、お楽しみ昼食会、十日市場地域ケアプラザの4団体 生徒参加人数：31人



■平成19年度(2007年度)

この事業をどう広げていくか

受け入れ団体：ケアプラザが抜け、三保地区体育指導委員会、NPO法人にいはる里山「わ」を広げる会、創造と森の声、いっぽが入り7団体 参加人数：76人

■平成20年度(2008年度)

地域に根差した運営

第一回「たき火で語ろう！地域の大人と」を開催

受け入れ団体：7団体 参加人数：152人



十日市場中学校・地域交流事業のあゆみ

■平成21年度(2009年度)

実行委員それぞれの手で確実に実施を

参加団体: 中学校「草刈りの会」が入り8団体 参加人数: 152人



■平成22年度(2010年度)

交流事業が続いていくために

参加団体: 十日市場自治会と十日市場小学校はまっ子ふれあいスクールが入り10団体

参加人数: 208人



■平成23年度(2011年度)

交流事業がもたらしたもの

参加団体: 10団体 参加人数: 286人



■平成24年度(2012年度)

活動の成果発信へ

参加団体: 10団体 参加人数: 145人



■平成25年度(2013年度)

持続可能な活動にするために

参加団体: 「創造と森の声」が抜け「新治町自治会」が参加し10団体 参加人数: 236人



十日市場中学校・地域交流事業のあゆみ

■平成26年度(2014年度)

地域の力が地元の子どもたちの成長につながる

参加団体:「十日市場地区センター」が入り11団体 参加人数:383人



■平成27年度(2015年度)

地元で活躍する地元の子ども・若者たち

参加団体:11団体 参加人数:352人



■平成28年度(2016年度)

交流事業10周年に向けて

参加団体:11団体 参加人数:150人(「草刈りの会」は悪天候により中止)



■平成29年度(2017年度)

大人と子どもをつながりの場！体験活動の場！

参加団体:11団体 参加人数:222人



■平成30年度(2018年度)

この街でつながる、育ち合う

参加団体:10団体 参加人数:250人



十日市場中学校地域交流事業 活動マップ



十日市場施設連携マップ

① 老人福祉センター緑ほのぼの荘 (2.3階)

高齢者の方が健康で明るい生活を送れるよう健康相談を行うとともに教養の向上、趣味の教室、レクリエーションの場を提供し、高齢者を支援する施設です。この施設は十日市場ケアプラザ、緑図書館との複合館となっており、2階に会議室・生きたい作業室・健康相談室・事務室・生活相談室が、3階に機能回復訓練室・シャワー室・工作室(2室)・和室・大広間、娯楽コーナーがあります。



外観 受付

住所：横浜市緑区十日市場町825-1 電話：985-6321 FAX：985-6323
URL：<https://kyosaikai.jp/honobono-news/> 利用料：無料
開館時間：9:00~17:00 休館日：第三日曜日、年末年始(12/28~1/4)

② 十日市場地域ケアプラザ (2階)

地域にお住まいのみならず、安心して生活を営むことができるように、地域における福祉・保健活動の振興をはかるとともに、在宅生活を支援するための拠点となる施設です。地域の身近な相談窓口であり、様々な事業等も行っていきます。また、活動団体に対して貸室も行っています。赤ちゃんから高齢者まで、どなたでもご利用いただけます。是非ご利用ください。

住所：十日市場町825-1
電話：985-6321
FAX：985-6325



外観 ティーサービスの交流会

URL：<http://www.tsunagarita-i.jp/>
(地域情報サイト「つながり隊」)
<http://kyosaikai.jp/tokaichiba-cp/>
(十日市場地域ケアプラザ)
開館時間：月~土曜日9:00~21:00、日曜・祝日9:00~17:00
休館日：第3日曜日、12月29日~1月3日

③ 緑図書館 (1階)

一般書85,000冊、児童書40,000冊があり、横浜市内に在住・在勤・在学の方なら1人6冊、2週間まで借りられます。(登録が必要) 緑図書館にない本は、市内の図書館から取り寄せることができ、市内のどの図書館でも返すことができます。緑図書館独自の取組として、本を朗読したCDブックや6冊の絵本を1つのセットにした絵本セットの貸出しを行っています。年齢別のお話を毎月定期的に行っている他、様々な企画展示や講演会なども行っています。詳しくは、緑図書館のホームページをご覧ください。



CDブック

住所：十日市場町825-1 電話：985-6331 FAX：985-6333
Eメール：ky-libkocho12@city.yokohama.jp
URL：
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiki/library/chiiki/midori/>
開館時間：火~金曜9:30~19:00
土~日曜・祝日・12月28日9:30~17:00 1月4日12:00~17:00
休館日：施設点検日(月1回)、12月29日~1月3日、図書特別整理期間



外観

④ 緑区地域子育て支援拠点いっぽ

横浜市が各区に設置している就学前の子どもと保護者、子育て支援に関わる方のための施設です。
1階は未就学児親子が遊んで交流し気軽に相談できるひろばや赤ちゃんコーナー、子育てに関する情報コーナーもあります。
2階は子育て講座やリフレッシュ講座、また母親たちの様々な活動ができる研修室があり、ここでは地域で子育て支援に関わる方たちの研修や講座も行っています。また個別の相談も受けられるお部屋もあります。



外観



ひろばの様子

住所：十日市場町817-8 電話：989-5850
FAX：989-5851 Eメール：kosodate@midori-ippo.com
URL：<http://www.midori-ippo.com>
開館時間：10:00~16:00 利用料・登録料：無料
休館日：日・月・祝日(月曜日が祝日の場合、翌火曜もお休み)
年末年始

⑤ 十日市場地区センター

さまざまなサークル活動や集会・スポーツなど、生涯学習の場としてご高齢の方からお子さままで、地域の誰もが気軽に利用できる、横浜市が設置した施設です。1階は無料で利用できる、図書コーナー、プレイルーム、学習コーナーがあります。2階には有料で利用できる、会議室、工芸室、和室、料理室等があります。体育室は、有料で利用できる団体の時間と無料で利用できる個人の時間(卓球とバドミントンに限ります)があります。

住所：十日市場町808-3 電話：981-9573
FAX：982-3161
Eメール：info_tk@tokaichiba-cc.com
URL：<http://tokaichiba-cc.com>
開館時間：平日9:00~21:00
日曜・祝日9:00~17:00
休館日：毎月第1日曜日
(第1日曜日が祝日の場合は翌日に振替)
年末年始12月28日~1月4日



外観 ロビー

⑥ みどり福祉ホーム

横浜北部にお住まいの重度重複障害者の方で活動や障害者へ生活支援(一時ケア・余暇支援)を行っている施設です。
「地域の中で自分らしくいきいきと生きる」をモットーに、地域交流事業として毎年『みどり福祉ホーム祭り』を実施しています。

住所：十日市場町808-3 電話：984-7878
FAX：984-7878
Eメール：midori-fukusi@blue.ocn.ne.jp
URL：<http://midori-fukusi.wixsite.com>
開館時間：9:00~17:00
休館日：基本的には毎週土・日曜日及び年末年始(12月29日~1月3日)



外観

「十日市場施設連携」とは

十日市場にある6つの施設が、連携してそれぞれの分野を生かした事業や情報交換をすることで、十日市場がより住みやすい地域となることを目指しています。

作成者：神奈川大学都市計画研究室

「十日市場ひと」で検索
ID: tokaichibabito

「十日市場ひと」は、横浜市緑区十日市場の魅力を発信するページです。神奈川大学都市計画研究室が運営し、住民のみならずと研究室メンバーが記事をお届けします。

十日市場中学校周辺の変化



駅からの
歩行者用道路



カフェテリアにもなる
高齢者向け住宅



YOKOHAMA GREEN BATON PROJECT



中学校から新しい住宅を臨む

地域交流事業がそれぞれにとって何をもたらすのか

<地域にとって>

- 学校や生徒を見直し、地域のこどもを知る機会
- 地域活動の活性化
- 団体相互の活動を理解し、つながり、協力体制をつくる

<学校にとって>

- 地域と顔の見える関係を作り、地域を理解する場
- 学校以外で生徒が活躍できる場
- 中学生が心を育てる機会

<生徒にとって>

- 自分たちの活動を認めてもらえる環境
- 自分の住む地域や大人を知るきっかけ(社会と繋がる場)
- 新たな居場所がみつかる

地域交流事業が継続するためのポイント

<地域がつながるポイント>

- 地域のキーマンを見つけ出す
- 新たな取り組みを作らない(人材や資源をそのまま生かす)
- 生徒・学校を応援する企画内容

<学校と地域がつながるポイント>

- 学校長や先生の理解と協力
- 地域が主体であること
- 学区内での活動であること

<事業として継続するポイント>

- 活動内容がボランティア活動であること
- コーディネート役が必要
- 地域を良く知る人がいること
- 事務局(企画、運営、報告)があること
- 負担感なくできる内容



地域で子どもたちを見守る仕組み

- 地域全体が居場所（選べる、関わる、戻れる）
- 異世代がつながる地域に
- 住民と学校による実行委員会
- 自分のできることを無理なく楽しく！



地域交流事業がそれぞれにとって何をもたらすのか

<地域にとって>

- 学校や生徒を見直し、地域のこどもを知る機会
- 地域活動の活性化
- 団体相互の活動を理解し、つながり、協力体制をつくる

<学校にとって>

- 地域と顔の見える関係を作り、地域を理解する場
- 学校以外で生徒が活躍できる場
- 中学生が心を育てる機会

<生徒にとって>

- 自分たちの活動を認めてもらえる環境
- 自分の住む地域や大人を知るきっかけ(社会と繋がる場)
- 新たな居場所が見つかる

地域交流事業が継続するためのポイント

<地域がつながるポイント>

- 地域のキーマンを見つけ出す
- 新たな取り組みを作らない(人材や資源をそのまま生かす)
- 生徒・学校を応援する企画内容

<学校と地域がつながるポイント>

- 学校長や先生の理解と協力
- 地域が主体であること
- 学区内での活動であること

<事業として継続するポイント>

- 活動内容がボランティア活動であること
- コーディネート役が必要
- 地域を良く知る人がいること
- 事務局(企画、運営、報告)があること
- 負担感なくできる内容

この街でつながる、育ち合う

地域に中学生がでて、いろんなボランティアをする
それを支える学校と住民や団体
そして地域との交流がひろがり、つながっている
その13年間の活動の報告書です。

横浜市立十日市場中学校地域交流事業



十日市場中学校 地域交流事業のあゆみ

横浜市立十日市場中学校 校長先生から

「夏ボラ」は十中生が地域に生まれていることを象徴する活動です。中学生、保護者、社会の意識は変化します。それとともに「夏ボラ」も変化します。でも続いてきているのは13年間にわたって「中学生を見守り、関わり、頼りにしている。」という地域の方々、関係の方々の思いが変わらずつなげてきているからだと思います。根幹の思いが続く限り、十中生はあたたかく生まれていきます。さらに10年後は夏ボラで育った親子の会話が聞けると思います。楽しみです。

八木 範夫校長

十日市場中学校地域交流事業実行委員会から

毎年夏に、たくさんの中学生在「いっぽ」にボランティアに来てくれるのを、子どもたちも親たちも、またスタッフの私たちも楽しみに待っています。そしてその中に、小さい時に遊びに来ていた子たちが、中学生になりボランティアとして来る姿をみられるのはとてもうれしく、地域で長年ボランティアの受け入れをしてきたおかげだと思います。中学生たちが誰かの役に立てたことを実感し、輝く笑顔で「また来ます!」という姿を私たちは頼もしく思っています。自分たちの街をこうして実感し、互いにつながり大人も子どもも育ち合える、そして何かあったら助け合える存在が近くにあるんだと思える中学生たちが増えて、街をより豊かにしてくれる存在となる事を願い、今後もこの活動を続けていきたいと思っています。

事務局 松岡 美子(緑区地域子育て支援拠点いっぽ)

十日市場中学校地域交流事業とは?

私たちは十日市場中学校の生徒と地域の大人が、お互いの顔がわかり、挨拶をかわす関係をつくり、みんなで子どもたちの成長を見守る地域を作っていくために、様々な活動を一緒に体験する交流事業を実施します。将来的には中学生が高校生になっても活動に参加したり、学校帰りにふらっと立ち寄ってボランティアをしたり、町内の行事にも参加して活躍できるように、そんなことを夢見しています。

十日市場中学校交流事業実行委員会



- **2004年(平成16年)**
学校と地域をつなぐコーディネーターを!
・(公財)よこはまユースの前身団体である(社)よこはまボランティア協会が「地域をつなぐコーディネーターを」というテーマで市内公立中学校校長会に、モデル事業として協働する中学校を公募し、十日市場中学校に決定。
- **2005年(平成17年)**
生徒が地域に出て、様々な活動を体験してほしい!
・十日市場中学校周辺の機関・団体へ、中学校との関わり方の現状と希望、交流事業の可能性について、ヒアリングした結果、地域の方と中学生とのかかわりがほとんどなく、中学生が校外で活動する機会を推進したいという希望が出た。
- **2006年(平成18年)**
地域の人たちと生徒が顔の見える関係を!
・「十日市場中学校・地域交流事業」発足。
・事務局は(財)横浜市青少年育成協会(現よこはまユース)。十日市場団地連合自治会長、十日市場中学校PTA会長、緑区役所地域振興課、青少年育成協会、十日市場中学校による実行委員会で事業計画が検討され、平日は部活等で中学生の参加が難しいため、夏休みを利用して、地域の人々と触れ合う機会を作る事業に決定。ボランティア受入先は①新治市民の森愛護会、②三保ねんじゅ坂プレイパーク③お楽しみ昼食会、④十日市場地域ケアプラザの4団体。
・生徒参加人数:夏休み(4団体)31人
- **2007年(平成19年)**
この事業をどう広げていくか
・ボランティアの受け入れ団体は①三保地区体育指導委員会②里山交流センター③新治市民の森愛護会④創造と森の声⑤三保ねんじゅ坂プレイパーク⑥お楽しみ昼食会⑦緑区地域子育て支援拠点いっぽの7団体となり、これ以降この団体は継続している。
・夏の交流事業の名称を「夏ボラしようぜ!」(夏ボラ、冬ボラ、春ボラ(の愛称になった)とし、全校生徒に配布するチラシの表紙のイラストは、十日市場中学校の美術部の生徒が描いたものを使うようになり、現在も続いている。
・たき火を囲んで地域の方と中学生が色々な話を語り合う会をやってはという声が上がりました。たき火チームができた。
・中学生が作成した、ボランティア掲示板が中学校の職員室の前にでき、地域のボランティアの情報をいつでも生徒が目にするできるようになった。
・生徒参加人数:夏ボラ(7団体)76人
- **2008年(平成20年)**
地域に根差した運営
・今年度から事務局機能を青少年育成協会から 世話人へ移行。名称は「十日市場中学校・地域交流事業実行委員会」とし、会則を決め、実行委員、アドバイザー、サポーターで、運営は実行委員が行う。実行委員は受け入れ団体、中学校の校長先生、副校長先生、教務の先生、生徒指導の先生、育成協会の担当者も引き続き運営に加わるが、将来的には実行委員会がこの事業を運営することを確認。
・第一回「たき火で語ろう!地域の大人と」を三保町の刈谷氏の山林をお借りして開催。山林のタケノコ堀と竹を切って、お椀とお箸を作ることから始まり、たき火を囲み、焼き芋をして、楽しい時間となる。
・生徒参加人数:夏ボラ(7団体)122人

- **2009年(平成21年)**
実行委員それぞれの手で確実に実施を
・第2回「たき火で語ろう!地域の大人と」参加者も増え、普段できないことをできる喜びが中学生の笑顔となっている。
・「世話人会」で議題内容を決定し、「実行委員会」で検討する体制とし、学校、PTAの協力により生徒や保護者、地域自治会への周知がなされ、地についた活動となってきた。
・数年前から、地域の方と先生方による「草刈りの会」を、今年度からは中学生も参加するように。
・生徒参加人数:夏ボラ(8団体)152人
- **2010年(平成22年)**
交流事業が続いていくために
・第3回「たき火で語ろう!地域の大人と」たき火を囲む事も楽しみですが、タケノコ堀りは中学生も大人も経験したことのない人が多く、本当に楽しみになっている。
・地域の様々な団体が受け入れ団体となっているが、自治会が中学生を受け入れることで、理解の幅が広がる、という声を受け、今年度から受け入れ団体となった。また十日市場小学校のはまっ子ふれあいスクールも加わり10団体となる。
・この年からオリエンテーションを中学校の体育館で行う。それに先立ち、各団体でのボランティアの様子をまとめた映像を、全校生徒に見せた。
・横浜市子ども青少年局の推薦を受け、神奈川県生命保険会社から寄付金の贈呈を受けた。
・生徒参加人数:夏ボラ(10団体)208人
- **2011年(平成23年)**
交流事業がもたらしたもの
・今年度から事務局機能を実行委員ですべて行う事に決定。世話人会と事務局を執行委員で行い、よこはまユース(元育成協会)はオブザーバーとして参加。
・たき火の会、夏ボラ、冬ボラ、春ボラも定着し、それぞれの団体の連携や、地域と学校の連携が自然とできる関係性が築かれてきた。
・生徒参加人数:夏ボラ(10団体)286人
- **2012年(平成24年)**
活動の成果発信へ
・これまでの活動をまとめた報告書を作成。この報告書は、これまでの取り組みのふりかえりと、モデル事業として他地域にも紹介する情報発信効果も生まれた。
・焚火の会では、たけのこが豊作でござった煮作り。また初めての試みとしてバームクーヘン作りにも挑戦。生徒・大人合わせて86名の参加でにぎわった。
・夏ボラは昨年度も参加した生徒がリピーター参加するなど、つながりが深まっている。
・「第19回横浜環境活動賞」を受賞。
・生徒参加人数:夏ボラ(10団体)145人
- **2013年(平成25年)**
持続可能な活動にするために
・生徒たちが地域の中で活躍する場づくりが安定して実施できています。毎年恒例になっているが、決して当たり前には実施できていない。学校や、実行委員会、地域団体間で助け合いながら無理なく負担なく、地域の子どものために続けられる方法を模索している。
・「創造と森の声」が抜け、新たに「新治町自治会」が加入
・生徒参加人数:夏ボラ(10団体)236名

- **2014年(平成26年)**
地域の力が地元の子どもの成長につながる
・夏ボラなど決まったボランティア活動日以外にも生徒が活動先にボランティア活動に来るようになってきた。地域交流事業が特別なイベントから日常の一つへと変化しつつある。また地域の中に生徒たちの居場所が増えてきたことをうれしく思う。
・新たに「十日市場地区センター」が加入。
・夏ボラ十日市場中学校PTA草刈りの会には部活単位での参加も。
・生徒参加者人数:夏ボラ(11団体)383人
- **2015年(平成27年)**
地域で活躍する地元子ども・若者たち
・十日市場中学校の卒業生が地域交流事業で出会った活動先でボランティアを続けたり、地元の子も中学生になりこれまで利用していた施設にボランティアに行くなど、地域のなかで担い手として育っている。継続しているからこそ生まれた循環。
・中学校でこのボランティア活動についてアンケートを取り、生徒にとって活動の意味が見えた。
・生徒参加者人数:夏ボラ(11団体)352人
- **2016年(平成28年)**
交流事業10周年に向けて
・中学生が地域でボランティア活動をする中で、受け入れた団体だけでなく地域住民からも良いフィードバックを得ている。交流だけでなく生徒の学びを深めるために振り返りの時間も重要という意見も出た。また、この活動は中学校も含めた実行委員会で行っているが、区の学校連携の担当の方が、会議に見学にこられるようになった。
・生徒参加者人数:夏ボラ(11団体)150人(草刈りは悪天候により中止)
- **2017年(平成29年)**
大人と子どものつながりの場!体験活動の場!
・交流事業が定着し、中学生もボランティアをすることが特別な事ではなく、あたりまえの事と捉えてきている。そして交流事業の立ち上げた当時の意味や活動を継続するなかで得たつながり、変化をこれからもつなげていくためには、地域や子ども達の交流・成長も含めて、交流事業の今後を実行委員全員で考えていく。
・生徒参加者人数:夏ボラ(11団体)222名
- **2018年(平成30年)**
この街でつながる、育ち合う
・十日市場中学校に地域連携部ができ、その担当の先生方が校長、副校長とともに会議に参加。地域ができること、中学校が出来ること等をもう一度確認し、これからも連携を大切に、子どもたちも私たちも育ち合う街にしていきたいと思う。
・「たき火の会」は本年度で終了。今まで場所を提供して下さった刈谷さん、とりまとめや当日のお世話をしてくださった丸山さんと少年野球チーム三保ウィングのOBの皆様の協力に感謝し、大人と子どもと一緒に笑顔になれる事業をこれからも考えていきたいと思っております。
・生徒参加者人数:夏ボラ(11団体)250名



活動団体のご紹介

お楽しみ昼食会

地域に住む高齢者の方を対象に《十日市場ヒルトウン7街区集会所》にてお楽しみ昼食会を毎月1回、第4木曜日に開催しています。「夏ボラ」として始まった当初より参加・協力として中学生を受け入れてきました。その頃は、60名前後の利用者でしたが、現在では80名ほどに増えて、80~90食をスタッフ11名で作り、配膳しています。ボランティアで来られている中学生の皆さんには、料理作りと高齢者とのふれあいを大事に活動してもらっています。

★中学生の声

- *作業することが意外と多く、初めての事ばかりで大変でした。
- *基本のマナーから色々な事を学べて良かったです。
- *たくさんの方が来てくれて「ありがとう」「美味しかった」と言われたのがとても嬉しかったです。



十日市場地区センター

十日市場地区センターは、地域の皆さまが自主的な「活動」と「交流」を通じ、地域コミュニケーションを形成していただくことを目的として設置されています。さまざまなサークル活動や集会・スポーツなど生涯学習の場として利用されています。高齢者からお子さままで、地域の誰もが気軽に利用できる施設です。その中で、夏のイベントとして定着してきました『夏休み子どもDay』は、小学生以下を対象として夏休み中に開催しています。ボランティアの皆さんには、体験コーナーや販売のブースのお手伝いや全体の片付けまでをお願いしています。

★中学生の声

- *小さい子とのふれあい、楽しませることができて良かった。
- *地域の方、地区センターの方と多く関わることができてとても楽しかった。
- *準備から片付けまでやって、すごく充実した時間を過ごせました。



十日市場中学校 地域連携部

平成21年度より地域交流事業の一つとして位置づけ、PTA、生徒だけでなく地域の方々も加わり十日市場中学校周辺の歩道や街路樹の草を刈る環境整備をする活動「十中草刈り」を続けています。例年、夏休みの終盤に行われ、「夏休みの風物詩」として地域に定着しています。平成30年度からは、十日市場中学校地域連携部が主催しています。草刈りを通じ、地域の美化に貢献するとともに、地域の方々と作業をすることでお互いの顔を覚えてコミュニケーションのきっかけを作ることが、この活動の大きな目的です。普段から学校周辺は多くの方々のご協力によって整備されています。生徒たちにとって身の回りの生活を支えてくれている多くの人との「つながり」に気づく場になることを願っています。



十日市場町自治会

夏の盆踊りは地域の方が一同に集まる大きな行事の一つです。夏ボラとしても定着し、毎年多くの中学生がお手伝いとして参加し、盆踊りを盛り上げています。今年も消防団の模擬店を中心に、ポップコーンや綿菓子、じゃがバターの販売など、様々な出店の売り子として中学生が活躍しました。パトロールなどで見学に来た先生たちによると、大きな声で接客をする姿、小さな子どもに優しく声をかける姿など、普段の学校生活では見ることができない生徒の様子が数多く見られたそうです。地域の人だけでなく、参加した生徒にとっても実りのある盆踊りを今後もつくりたいと思います。



三保ねんじゅ坂プレイパーク

「三保ねんじゅ坂プレイパーク」は地域の子どものための野外での遊び場・青少年の居場所として三保念珠坂公園で毎週水、木曜日と第1・3土曜日の10:00から16:00に活動しています(雨天決行)。プレイパークにはプレイリーダーがいます。時には子どもとトントン遊び、子どもの遊びゴコロを引き出し、子どもの気持ちを受けとめ、大きな事故が起きないよう気を配り、遊びの大切さを周囲の大人に発信したりしながら、世話人といわれるボランティアスタッフと共に場を創っていきます。ボランティアがきっかけでその後も足を運んでくれる子がいたり、中学校を卒業しても顔をだしてくれることも増えてきました。また、学校に行きづらい子にとって、自分を受けとめてもらうことのできる場、としての重要性も感じています。



十日市場小学校放課後キッズクラブ

平成27年に、はまっ子ふれあいスクールから放課後キッズクラブへ移行されましたが、引き続き交流事業の受け入れ団体として、お手伝いさせていただいています。小学生の子どもたちは、中学生の皆さんがキッズクラブへ来てくれるのを、とても心待ちにしています。ボランティア当日には、中学生が帰ってしまうことが悲しくて、ぐずってしまう子、ボランティアではない日にもキッズクラブへ来てほしいと約束を取り付ける子と様々で、こんな小中学生の関係がとても素敵だなあと感じて微笑ましいです(*^^*)中学生のボランティアの受け入れ先としてお手伝いさせていただいていますが、小学生にとっても、良い機会であると感じています。

★中学生の声

- *自分がお世話になったはまっ子に恩返しできて良かったです。



新治市民の森愛護会

新治市民の森は横浜市の市民の森の中で一番広く67haもあり、植林地、雑木林、竹林などすべての林が揃っています。できるだけ自然の森の姿を残そうと愛護会のメンバー40-50名が毎週森の手入れに汗を流しています。十中生のボランティア活動は愛護会のメンバーと一緒に、竹の話、道具の使い方、自然の話などをしながら竹林の整備をしてもらっています。おかげさまで少しずつ竹林もきれいになり、いいタケノコが出ています。生徒さんが竹林での作業をどのように想像していたかわかりませんが、参加した生徒さん全員がくたびれたと言いつつも、いやいやながらの作業ではなく楽しんで作業をしています。

★中学生の声

- *きつかったけどノコギリでの作業楽しかった。
- *整備した場所が明るくなった。
- *竹の話などを聞きながらの作業たのしかったです。



NPO法人 新治里山「わ」をひろげる会

「にいほる里山交流センター」は新治里山公園の中にある旧奥津邸を活用して作られた施設です。谷戸の風景を楽しみながら休憩できるほか、自然観察や里山の暮らしを体験する教室などさまざまな催しと情報発信をおこなっています。十日市場中学校の生徒さんには夏のボランティアとして、小学生対象の押し花のイベントをお手伝いいただきました。冬ボラでは地元の季節の行事『どんどこ焼き』のお手伝いをお願いし、地域の方たちと火を囲み、伝統行事を楽しみました。

★中学生の声

- *小学生に押し花の作り方をアドバイスして、貴重な体験ができました。初めてこのような活動をしたのですが、最初は小学生も私も緊張していてあまり話せなかったけど、時間がたつうちに仲良くなれ、よかったです。



三保地区スポーツ推進委員 連絡協議会

地域の活性化のために「6月小学生男女混合キックベースボール大会、9月大人男女混合ソフトボール大会、10月健民祭、11月ゲートボール大会、1月ソフトバレーボール大会、3月高齢者グランドゴルフ大会」更には1月新春早々に行われる十日市場中学校校区「みどりさわやかロードレース大会」の協力応援を年間の事業として行っています。10月の健民祭を7月に地区実行委員会を立ち上げ、中学生も参加して住民が楽しめる健民祭にするための委員会を開催しています。

★中学生の声

*お手伝いできたことに感謝しています。幼児から高齢者までのプログラムに、本部、審判、商品、各係等自ら行動することの大切さを体験、経験する大変良い機会の健民祭でした。次回もぜひ参加したいと思います。ありがとうございました。



緑区地域子育て支援拠点いっぽ

「いっぽ」は子育て支援の拠点として、緑区に1館設置されています。「いっぽ」は気軽に相談でき、子育てに関する情報が得られる場で、また様々なネットワークをつくり、子育て中の方や子育て支援に関わる人材の育成をします。そして親子が自由に遊び、交流できる「ひろば」があります。中学生はひろばで赤ちゃんや子どもたちの遊び相手として、スタッフと一緒に絵本の読み聞かせや手遊びを行います。また、夏祭りの準備や当日のお手伝いにも多くの生徒が参加しており、各コーナーの重要な戦力となっています。

★中学生の声

*小さい子とのふれあい、楽しませることができて良かった。
*最初はどう接すればいいのかわからなかったけど、お母さんたちを見て、それを参考にしてたら小さい子たちが自分から来てくれた。(中学2年生)



十日市場中学校

十日市場中学校には、新治小、十日市場小、三保小の3つの小学校の児童が主に進学してきます。約850人の生徒が通う大規模校です。校区内は住宅地や集合住宅としての開発が進む一方、農地や森林、里山など自然豊かな土地も残されています。長年この地域で暮らす住民も多く、学校にかかわってくださる地域の方が数多いです。人々の想いと緑豊かな自然に囲まれて、生徒たちは学校生活を送っています。



「夏ボラ」の紹介



オリエンテーション

全校生徒は事前に各団体の活動紹介ビデオをみて、どこに行きたいかを決めます。オリエンテーションに参加し、各団体の説明を受けて、いよいよボランティアに参加することになります。

新治町自治会

地域内では親睦行事などを通じて、住民同士が交流を深めたり、地域の生活環境の向上に取り組むなど様々な活動を実施していますが、「夏祭り」も活動の一環です。これは神明神社境内で行われ、いろいろな趣向を盛り込んだお祭りです。その中で、十日市場中学校の生徒さんが綿菓子を作り、販売あるいはヨーヨー釣りの運営、祭り全体の進行アナウンスなど元気にやっただきました。中学生の参加で活気づきました



≡≡ たき火の会 ≡≡

「たき火の会」は、地域の地主さんのご厚意により、竹林と少年野球場を提供していただき、少年野球チームの皆さんもご協力いただき、地域交流事業に関わる人々の顔合わせの意味合いとして、平成20年度からはじまりました。「地域の大人との関わりが少ない子どもたちが、自然と親しみながら、子ども・大人を含めて多くの人と関係づくりができること」として、筍掘りとたき火が企画されました。筍掘りやたき火は普段の生活ではなかなか経験できません。慣れない作業も多く、子どもたち同士で協力し合ったり、わからないことを地域の大人に聞いてみたりする中で、子どもたちは自然と友だちや顔見知りを増やせたことでしょう。たき火の会は平成30年の第11回を最後に幕を閉じました。しかし、たき火の会が目指した「子ども・大人を含めた多くの人との関係づくり」は地域交流事業の根幹につながります。今後も地域の多くの大人が、子どもたちを見守っていく地域でありたいと願っています。



ボランティア掲示板

職員室前にボランティア掲示板が設置され、季節を問わずに地域でのボランティアの情報が掲示されています。希望者はこの掲示板を見て各自で申し込みをしています。



十日市場中学校地域交流事業 2018 夏の交流事業 夏ボラしようぜ!!



◆オリエンテーション:7月20日(金)
◆活動体験:7月15日(日)~10月7日(日)
主催:十日市場中学校地域交流事業実行委員会

夏ボラのパンフレット

表紙や挿絵には十日市場中学校美術部の皆さんが描いた作品を使用しています。夏ボラのパンフレットは全校生徒に配布されています。ボランティアは自分で連絡をするのが基本ですが、夏ボラの参加生徒は多いため、学校で参加生徒を集約し、体験先に連絡をします。最近では、時間を見つけていくつものボランティアに参加する生徒や、部活の仲間とまとまって参加する生徒も多いです。また、在学中に何回もボランティアに行き、卒業後も行く生徒もいます。



2019年（平成31年）3月20日発行
発行元：十日市場中学校地域交流事業実行委員会

【十日市場中学校地域交流事業実行委員】

大川 浩司（新治市民の森愛護会）
笠井 幸子（お楽しみ昼食会）
小池 佐知子（NPO法人 新治里山「わ」を広げる会）
坂上 友里（三保ねんじゅ坂プレイパーク）
桜井 永雄（三保地区スポーツ推進委員連絡協議会）
佐藤 克徳（十日市場町自治会）
瀧本 朋子（十日市場地区センター）
野田 重雄（新治市民の森愛護会）
松岡 美子（緑区地域子育て支援拠点いっぽ）
渡辺 奈美（十日市場小学校放課後キッズクラブ）
和田 哲男（新治町自治会）
十日市場中学校 地域連携部
公益財団法人よこはまユース

